

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2170500389
法人名	(有)やすらぎ 赤座
事業所名	グループホーム やすらぎ
訪問調査日	平成 19年8月7日
評価確定日	平成 19年9月10日
評価機関名	NPO法人 旅人とたいようの会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月29日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 2170500389		
法人名	(有) やすらぎ 赤座		
事業所名	グループホーム やすらぎ		
所在地	岐阜県各務原市蘇原旭町1-89 (電話) 058-382-5822		
評価機関名	NPO法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110		
訪問調査日	平成19年 8月 7日	評価確定日	平成19年9月10日

【情報提供票より】(19年6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	10 人	常勤 10 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 10 人	

(2) 建物概要

建物構造	I一鉄骨 II一木造 造り		
	I一2階建ての1階、2階部分	II一1階建ての1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~51,000円	円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有／無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり	1,500	円		

(4) 利用者の概要(6月 30日 現)

利用者人数	15 名	男性	5 名	女性	10 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	名		
年齢	平均 82 歳	最低 62 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	そはら赤座医院 あかざ歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR高山線、名鉄各務原線の駅にほど近い静かな住宅地に位置するホームである。法人代表が経営する医院が隣接しており、看取りの対応も含め、緊急時および日常の健康管理について安心感が得られる体制となっている。またディサービスが併設されているので、そこでの行事にも参加することができる。ホーム開設8年目を迎え、近隣の住民と挨拶を交わしたり、野菜などの差し入れがあったり、時には介護相談を受けるなど、法人とともにホームも地域に溶け込んでいる。日常の暮らしでは利用者一人ひとりが出来る部分で役割を担い、それぞれの楽しみごとを持って過ごしている。管理者を始め全職員からは、互いを信頼し合い日々のケアに真剣に取り組む姿勢が感じられる。利用者そして職員の笑顔があふれる穏やかなホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重 点 項 目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「理念の共有、啓発」「介護計画の職員の共有」「介護計画作成における入居者、家族の意見の反映」「個別記録の記載方法」「排泄支援」「相談苦情受付」「市町村との関わり」について会議等で検討され、改善に向けた取り組みを行っている。
重 点 項 目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義について管理者、職員共に理解しているが、評価を行う際には全職員での取り組みに至っていない。
重 点 項 目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議には利用者の家族、自治会長、民生委員、高齢福祉課、社会福祉協議会、ホーム管理者、職員が参加し、ホームの現状、近所からの苦情についての報告があり、参加者からの意見も活発に出されている。災害時における地域の協力要請も自治会長、民生委員を通して行われた。会議後、議事録を作成し参加メンバーおよび関係者に配り、モニター役としてホームを支えてもらっている。
重 点 項 目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時に利用者の暮らししぶりを伝えるとともに、意見や要望を聞いている。現在は定期的なたよりを発行していないが、ホームの現状や利用者の様子をより知ってもらうため、たより発行に取り組む意向をもっている。またホーム玄関に“ふれあい箱”を設置し、家族の声を聞き運営に反映させている。
重 点 項 目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、地域の掃除に職員が参加し、その際に介護相談を受けることもある。また法人の七夕会やクリスマス会に地域の婦人会や法人友の会ボランティアの参加があり、交流を深めている。

2. 評価結果(詳細)

(■ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	①毎日の声かけで寝たきりにさせない ②体力増強のため仕事の役割分担を決める ③利用者全員で作業をすることによって協調性を持つてもらう というホーム独自の具体的な理念を掲げている。	<input type="radio"/>	法令改正により、グループホームは地域密着型サービスの一つとして位置づけられている。改めてその意義やホームの役割の確認が必要であり、理念の見直しが求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に理念の確認と意識付けをし、職員間での共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の掃除に職員が参加したり、その折に介護についての相談を受けている。また法人の七夕会やクリスマス会に地域の婦人会や法人友の会ボランティアの参加があり、交流を深めている。	<input type="radio"/>	回覧板などを利用しホーム側からの発信を行い、地域の人達との交流をさらに深めていきたいとの思いがあり期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価および外部評価のねらいや活用方法を理解しており、改善に向けた取り組みを行っている。外部評価の結果をホーム玄関に掲示し公示している。しかし今回出された自己評価は、全職員で行うには至っていない。	<input type="radio"/>	自己評価を職員全員で取り組むことにより、職員の意識合わせおよび日々のケアの振り返りを行うことができる。次回からは全職員による評価を期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の家族、自治会長、民生委員、高齢福祉課、社会福祉協議会および、ホーム側から管理者、ケアマネージャー、職員が参加し開催している。会議では、ホームの現状、近所からの苦情についての報告があり、参加者からの意見も活発に出されている。また会議後に議事録を作成し、参加メンバーおよび関係者に配っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者が権利擁護事業を利用しており、高齢福祉課と社会福祉協議会と連携を取りながら対応にあたっている。日常的に意見交換や相談を持ちかけるなど、馴染みの関係ができている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に利用者の暮らしぶりを伝えている。定期的なたよりの発行は行っていない。金銭管理については、金銭の出し入れごとに処理している。	○	今後、家族へのたよりを定期的に発行したいとの意向がある。さらには利用者一人ひとりの状態や暮らしぶりについて、個別に報告することも検討されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に、意見や要望を気兼ねなく言ってもらえる関係作り、そして雰囲気作りに努めている。また玄関に“ふれあい箱”を設置して、家族の声を聞く取り組みも行っている。	○	苦情相談窓口がホームのみの明示となっている。家族の心情を考慮し、第三者または行政など事業所以外の窓口の追加が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	近年離職者はほとんどないが、異動の場合には利用者にダメージを与えないよう、わかり易い言葉で説明し、職員全員でケアにあたっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修体制が整っており、職員となって一ヶ月以内の新人研修および、現任職員に向けて3ヵ月毎の継続研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はグループ協議会に加入していない。併設施設のディサービスとは行き来があり、職員同士は顔なじみであり交流をもっている。しかし外部の同業者とはつながりがない。	○	協議会に加入することにより、情報収集や交流の機会をもつことができ、職員の質、強いてはホームの質の向上につながると思われる。職員間で加入を検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念と共有					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するため、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の意思を第一と考え、契約前に家族とともに本人が見学し、しばらくホームで過ごしてもらった上で納得して利用に至っている。また利用開始前に詳細にアセスメントを行い、利用者の生活の変化によるダメージを少しでも軽減するよう努めている。	○	体験入所については過去にも実施した経験があり、今後も希望があれば受け入れる用意はある。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に過ごす時間を大切にしており、介護という一方的な関わりではなく互いに支え合う関係作りを目指している。日常の生活の中で、言葉づかいや人を思いやること、感謝の言葉をかけることなど、利用者から学ばせてもらう場面が多い。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントを通して利用者および家族の意向や要望を把握し、一人ひとりに合った過ごし方を検討している。また暮らしの中で利用者に不安げな様子が見られる時には、側に寄り添い、ゆっくり話しを聞いて対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方にについて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを基に利用者、家族の意向を取り入れ、職員ミーティング時に全職員が気付きや意見を出し合い作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的および、状態変化により計画の変更が必要だと判断した時には、全職員参加で計画の見直しを行っている。その結果、計画の継続あるいは新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護保険サービスの他に、理美容院への送迎や、そこに行かれない利用者の出張サービスなど、利用者や家族の要望に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人代表がホーム協力医となっているが、その他かかりつけ医の希望があれば支援を行っている。その場合の受診には現在家族が付き添っており、受診結果はホームを通して協力医に知らせている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	代表の経営する医院が隣接しているため、重度化した場合や終末期における医療の連携が取れている。ホームとして終末期のケア方針が打ち出されている。実際にホームにて看取りの経験がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳や誇りを大切にし、優しい対応や同じ目線での言葉かけを心がけている。介護記録も丁寧な言葉で記録しており、職員の利用者を敬う思いを感じることができる。個人記録はヘルパー室で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその一日の流れは決めているが、その日の利用者の状態や希望に合わせ、柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や味付けなど利用者の好みや希望を取り入れている。また地域の人からの差し入れや庭の畑で採れた野菜が食卓に並ぶこともあり、楽しみの一つとなっている。食後の下膳、台ふき、食器ふきなど、利用者ができる部分で職員と一緒に取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には昼間の入浴となっているが、夜間の希望があればシャワー浴にて対応している。入浴を拒む利用者には、声かけや対応を工夫し、職員が情報を共有して支援にあたっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し、取り込み、たたみ、食器ふき、居室の掃除、犬の世話など、利用者一人ひとりの生活歴を反映した役割があり、また園芸、絵画、塗り絵などの楽しみごとも支援している。	○	利用者の意思や持っている力を引き出すために、声かけや場面作りをさらに工夫し、支援していく意向がある。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの状態に合わせて、見守りながら一人での散歩、犬を連れての散歩、職員が付き添っての散歩を支援している。また車椅子使用の利用者の外出は気候に合わせ対応している。	○	外出や散歩は今後個別の介護計画の中に組み入れていく予定であり期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けないケアについては、職員全員でその意義を確認し実践に取り組んでいるが、利用者が不穏な状態の時には一時的に鍵をかけることがある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の指導のもと法人として避難訓練を実施しており、ホーム独自でも利用者一人ひとりの状態を考慮した上で、あらゆる場面を想定した訓練を行っている。また運営推進会議において、自治会長、民生委員を通じて災害時における地域の協力を要請している。	○	ホームあるいは法人において、災害に備え、水、食料、医薬品等備蓄の整備が望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録で毎日の食事摂取量を記入し、栄養状態を大まかに把握している。水分は定期的に摂取するよう配慮している。利用者一人ひとりの状態に合わせ、白飯は普通、半がゆ、全がゆ、おもゆに、おかげは、粗刻み、細刻み、ミキサー食で対応するなど、きめ細かい配慮がある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や利用者の作品が随所に飾られ、季節感や生活感を感じることができる。また台所を囲むように居間、食堂、居室が配置され、職員が調理をしながら利用者を見守り、利用者との会話を楽しんでいる様子が見られ、アットホームな雰囲気がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、タンス、籐椅子、テレビ、ベッド、冷蔵庫、時計、家族の写真など、自宅で使っていた馴染みの物や思い出の品が持ち込まれ、それぞれの好みで配置している。また利用者の作品も飾られ、その人らしさを感じることもできる。		